

平成27年5月29日

「子供×防災×遠隔交流授業」の実施について
～東日本大震災の教訓を南海トラフ地域に伝える～

内閣府大臣政務官 松本 洋平
復興大臣政務官 小泉 進次郎
文部科学大臣政務官 赤池 誠章

東日本大震災をはじめ数多くの地震災害を経験している我が国においては、日頃から防災に対する意識を持つことが重要です。また、南海地域においては、今後、大規模な地震が発生することが想定されていることから、東日本大震災における貴重な経験を風化させることなく、地域を越えて次代を担う子供たちに伝えていくことが重要です。

そのため、この度、東日本大震災の貴重な体験や教訓を南海トラフ地震が想定される地域に伝え、南海トラフ巨大地震への防災意識を向上させる防災教育を行うことを目的として、東日本大震災により被災した地域の学校と南海トラフ巨大地震が発生した場合に被害が及ぶ可能性がある地域の学校を、情報通信技術（ICT）により結び、遠隔交流授業による合同防災教育「子供×防災×遠隔交流授業」を下記のとおり実施することとしましたので、お知らせ致します。

今回の取組を契機として、今後とも、東日本大震災被災地域の学校や南海トラフ地震が想定される地域などの学校間交流の促進に努めてまいります。

記

日時：平成27年7月9日（木）午後（詳細については調整中）

実施校：宮城県気仙沼市立階上^{はしかみ}中学校
高知県高知市立城^{じょうせい}西中学校

※当日は3政務官が学校を訪問する予定

『子供×防災×遠隔交流授業』実施校について

宮城県気仙沼市立階上中学校

校長：小山 弘基 全校生徒：113名

- 平成17年度から気仙沼市危機管理課，消防本部の指導の下，防災授業に取り組む。震災時，海拔31メートルの高台にある校舎まで津波は到達しなかったが，多くの避難者であふれた。多い時で2000人収容。中学校のある地域は，市内での犠牲者，家屋の倒壊が一番多かった。
- 防災教育チャレンジプラン防災教育大賞（H25年度）（内閣府）
小中合同の訓練，避難所設営訓練等，様々な訓練の充実が図られ，地域と密接に連携しつつ，震災を風化させない工夫がなされている点等が高く評価される。

高知県高知市立城西中学校

校長：宮田 龍 全校生徒：339名

- 第1回「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」にて
「特別顧問賞 二階俊博（国土強靱化提唱者）賞」を受賞（H27.3）
（主催：一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会）
城西中学校のある地域には，坂本龍馬の生家があることから，龍馬にちなんだ「龍馬の地震八策」（防災の意識と具体的備えを行うことにより人的・物的被害を大きく軽減できることの周知を目的）の提唱と「城西龍馬新聞」の発行等が評価される。